

昨年十二月には、皆様の活動に支えられながら、創立五周年を向かえることができ、ひとくぎりがつきました。

また、平成十三年度の市障害福祉課による、決算報告の監査も無事終了し、平成十四年度の予算もつきましました。

介護保険制度が発足して一年半が経過し、患者の送迎も、介護タクシーが活用できるようになりました。それでも、満足に介護保険制度で送迎が行われている訳ではありません。

特に、六十五歳以下の透析患者さんや、介護保険が適用されない患者さんは、「さわやか」のボランティアさんによる送迎に頼



今年も一年頑張りましょう



らざるをえないのが現状です。

介護保険制度ができたことにより「さわやか」の果たす役割は、今までよりも更に重要になったと言わざるを得ません。また、全国的にみても、通院送迎の必要性は高まるばかりです。私たちがとりまく情勢は大変厳しいものがありますが、今年度も、「さわやか」事務局一同、全力をあげて頑張りまします。

ボランティアの皆さん！昨年にも増して、ご指導ご協力よろしくお願いたします。

長崎県腎協総会で

江頭会長が記念講演

五月十二日(日)長崎県諫早市の諫早文化会館で長崎県腎協の第二十七回定期総会が開催されました。

長崎県腎協より江頭会長に講演依頼があり「透析患者の心の問題について」という題で記念講演を行いました。その中で会長は「私たち透析患者も、透析治療で体は万全になっても、心が病んでい



長崎県腎協総会で講演中の江頭会長

たら、その人はいつまでも病人です。心が健全になつてはじめて人として一人前になります。」と述べました。

その後、一般的なストレスの定義や、精神、心理的問題を起ししやすい性格などユーモアを交えながら話し、現代人は心(精神)を大事にすることが、人類の課題であると熱弁しました。

また、自分自身の透析の経験を交えて、面白おかしく話をしていたので、同じ病気をもち、会場に集まった方々は、江頭会長の一言一言に一喜一憂され、中には涙を流されて感動されている方もいました。約一時間の講演の間、誰一人席を立つ事なく江頭会長の話に聞き入っていました。

最後は、場内から大きな拍手をいただき記念講演は終了しました。

役員会 — ニュース

四月二十五日、十五時から「さわやか」八幡事業所で、役員会が開催され、六名が参加しました。

最初に江頭会長より、私たちを取り巻く情勢について話がありました。

内外ともに厳しい情勢の中で、通院送迎も今まで以上の努力が必要と述べました。

活動報告があり、次に平成十四年度の指導員報酬の決定がされました。

規約の改正の問題提起がされましたが、いずれも、結論が出ず、先延ばしになりました。

介護保険制度の導入で、通院送迎事業にも色々問題が出てきています。

今年度も、前年に引き続き頑張りことを確認して、論議に終止符を打ちました。





透析病院紹介

阿部クリニック

院長 阿部 哲哉 先生

五回目の病院紹介は、小倉南区にある阿部クリニックです。10号線バイパスの田原新町の信号より少し入った所に位置し、JR下曾根駅からも近く大きなショッピングセンターもあり大変便利のよい場所にあります。

平成4年7月に開業され平成9年3月に現在の場所に新しく病院を建て移転されました。現在、患者数は111名、スタッフは、看護師さんが20名、技師、検査技師、栄養士さんが7名、事務員さんが4名です。年々患者さんが増えそれに伴いスタッフの方の数も増えますので昨年増築されました。

市立田原小学校を横に見ながら、シックな色のタイルレンガ造りの建物が目に飛び込んできます。一見、ここは病院？と思うような建物で、玄関先ではかわいらしい花々が咲いています。玄関を入ると左手には、まるで喫茶店のような喫煙室があり、その奥は静かな落ち着いた雰囲気のコロニーと受付があります。室内のインテリアとマッチした生け花がとても印象的でした。

病院に取材に行った日、お約束の時間前にロビーに下りてきてくださった阿部先生は、ロマンスグレーの寡黙でクールな紳士という第一印象でしたが、大学時代はボート部に所属されていたという、体育会系の一面を見せていただくことができました。また、病院内を院長先生直々に隅から隅まで案内していただき、私たちは本当に恐縮してしまいました。

いたる所に細やかな心配りが

1階は受付・事務所・診療室・CAPD室・レントゲン室・手術室・検査室・薬局・厨房など病院の要ともいえる設備が完全に整っています。

2階はおもに透析室が中心で他に外来患者さん用のサロンがあり、更衣室なども広く明るいイメージでした。

各フロアともそうですが、壁、床、ソファの色など全てコーディネートされていました。建物全体がバリアフリーになっており、トイレ・洗面台など車椅子の高さに合わせて造られています。全体の壁もエレベーターの中の壁も消毒しやすいようにビニールクロスを使用しています。透析室のベッド数は現在40床で増築した西透析室があと18床透析可能だそうです。

3階は入院設備が整っています。2人部屋が4室とバス・トイレ付き特別室が2室あります。入院患者さん用のお風呂には大きなガラス窓より坪庭が眺められ、露天風呂気分に入れそう



【プロフィール】

院長	阿部 哲哉
福岡県出身	昭和20年4月6日生まれ
昭和48年	九州大学医学部卒業
同年	福岡県済生会八幡総合病院 入局以後透析医療に従事
平成4年7月	阿部クリニック開業
平成9年3月	現在地に移転

でした。

人生の最終ステージを迎えるための部屋が1室あります。ここには酸素はもちろん、ここでも透析ができるようにラインが引いてありました。和室をイメージして障子と壁紙に工夫がしてあり、ご家族用のベッドまで用意されていました。この部屋は感染症など隔離しなければならない患者さんの為にも使えるようになっているそうです。

また、入院患者さん用のサロンもあり、そのソファは、わざと外側を向けてあるそうです。その訳は、患者さんが外の景色を見て早く退院したくなるようにとのことでした。各病室のカーテンと壁の色は一部屋ずつ変えてありました。屋上には患者さんがリハビリができるようなスペースがあり、ちょっとした空間を利用して日本庭園が造ってありました。

各階のベランダにはご近所の方への配慮として木々を植えてあります。こんな小さなところにも、心づかいがしのべれます。4階は院長室・スタッフの休憩室・会議室・多目的ホールと、広いベランダ等で、今までの階とは違い、どこかの豪華なホテルにでも来ているような錯覚に陥るようでした。

昭和48年より、腎臓専門医一筋でやってこられた阿部先生は、今では透析治療の第一人者のお一人として活躍されています。常に先を見つめ、今後は病院もホスピスの要素を取り入れたり、災害対策として、常に2トンの透析原液をタンクに貯蔵しており（100人の患者さんが4回透析できる原液の量）私たち患者としては、大変心強く思いました。

また、感染症対策においても酸性水を病院の中で作り、ウイルスや細菌を殺菌できるようになっていました。医療廃棄物から一般のごみまで、集め方から保管管理の仕方まで、大変工夫され安全面には徹底されていました。阿部先生は病院を建てられるときバリアフリーはもちろん、もう一つ、「病院らしくない病院」にしたいと思われたそうです。

それは週に3回通院し、4時間から5時間の治療をしなければならない患者さんの気持ちの負担を少しでも軽くし、ゆっくりくつろいでほしい、遊びにくる感覚で来てほしい、との思いからだそうです。各部屋のいたるところに、院長先生やスタッフの方々の、患者さんに対する思いやりを感じました。帰るときに「こんな個室なら一週間くらい入院(?)したいね〜」などと言いながら病院を後にしました。



スタッフからの一言
去年増築を行いました。この恵まれた環境の中、安全で適正な透析医療が行えるよう、スタッフ一同努力しています。